

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
病名登録における人体の構造 Human Body Structure for Diseases Coding		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(医療秘書及びICDコーディング検 定対策授業)	メディカルクラークユニット
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
診療報酬実務演習Ⅰ・Ⅱ 医療通訳 ICDコーディングⅠ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
医療秘書演習Ⅰ 医療通訳				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
古川 貴子	講義棟2階	火、水、木、金	授業中に指示します	
授業の概要				
病名登録において、正確なコーディングができるよう人体の名称・構造の知識を得、医療秘書検定・ICDコーディング検定の合格を目標とする。				
授業の目標				
①人体の名称と構造が説明できるようにする。 ②人体の機能と構造から関連する疾患名のコーディングができるようにする。 ③医療秘書技能認定試験及び、ICDコーディング技能認定試験に合格できるようにする。				
授業の方法				
講義中心ではあるがプロジェクターやPCを活用し人体の構造を立体的に捉え、ひとつの疾病から連鎖する疾病コードをディスカッションしレセプト請求時の最終主病名を導き出す。				
学習の成果(学習成果)				
人体の名称・構造の知識を得ることにより、医療秘書技能認定試験3級およびICDコーディング検定に合格することができる。さらに、レセプト請求業務に欠かせない病名登録の基礎を修得することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 病名登録における人体構造理解の必要性			
第2回目	全身・手足(骨や筋肉、皮膚)			
第3回目	頭部(脳や神経、感覚器)	小テスト①		
第4回目	胸部(肺・心臓)			
第5回目	上腹部にある各臓器			
第6回目	背部にある各臓器			

第7回目	下腹部にある各臓器	小テスト②
第8回目	がんの種類とコーディングの注意点	
第9回目	内分泌の疾患とコーディングの注意点	
第10回目	血液循環器系の疾病とコーディングの注意点	
第11回目	免疫のしくみとコーディングの注意点	小テスト③
第12回目	運動器系・循環器系・呼吸器系によくある疾患	
第13回目	消化器系・泌尿器科系・生殖器系によくある疾患	
第14回目	神経系・感覚器系・産婦人科系によくある疾患	小テスト④
第15回目	全体の構造と主な疾患名 まとめ	
事前・事後学習	図書館やITを活用し、人体構造の名称を読むことができるようにしておく。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	積極的にディスカッションに参加し、分からないところは質問している。
レポート		
調査報告書		
小テスト	60%	授業の進捗状況に合わせて小テストを行い、理解度に応じて評価する。
試験		
発表内容（態度含む）		
その他	20%	検定試験の合否で加点する。
教科書と参考図書		
ICDコーディング（基礎）・医療秘書技能認定試験3級問題集・しくみと病気がわかるからだの事典		
履修上の留意点・ルール		
授業中の居眠り、私語、携帯電話（使用可の場合は指示する）の使用と飲食は禁止とする。		